

倉敷市立幼稚園教育研究協議会（第4回）会議録

平成19年8月20日(月) 14:30~16:30

教育委員室

1 教育長あいさつ

2 協議

- 事務局 資料に基づいて説明。
これは公立幼稚園の教員の立場で議論したものである。これをたたき台に様々な視点から意見をもらいたい。
- 会長 専門委員会から補足説明があればお願いしたい。
- 委員 これは理想の幼稚園ということで話し合った。3年保育で各学年2クラス、定員は3歳20名、4歳25名、5歳30名が理想。職員組織については現在助教諭が三分の一を占めているので、こここのところが一番改善していくべきだと思う。これらのことが全てかなえられて理想の幼稚園になると思っている。
- 会長 このレポートについて質問があれば、そこから解決していきたい。
- 委員 助教諭の位置付けと教諭と助教諭の区別について教えてほしい。
- 事務局 助教諭は1年ごとの契約で雇用しており、正規職員ではない。幼稚園教諭の免許をもっていて、意欲・情熱のある人を雇用している。
- 委員 任用期限等の条件はどうなっているのか。
- 事務局 通算で5年を限度とする。園長の推薦があればさらに3年延長できる。時間は週37時間30分。一日にすると8時30分から17時までとなる。
- 委員 幼児の実態が多様化しており、一人一人に応じたきめ細かい指導ができにくいとあるが、担任の力量が大いに影響している。正規職員と助教諭の問題もある。
- 委員 専門委員会のまとめには費用のことが出ていない。それはどう考えているのか。
- 会長 理想の幼稚園ということで話し合われている。行政的に全てフォローできるものではない。現実には、もう少し統廃合していく方向の中で、人員を確保していくなど、いろいろなことが連動してくるのだと思う。年次計画の中で統廃合していき、その中で3歳児保育も1園1園増やしていくなど、すべての関連の中で考えていかなければならない。
- 委員 専門委員会のまとめは、一般的な理想論としては納得できる。これを目指すことになると、半分くらいの園を合わせていかなければならなくなる。そうなると職員もいらなくなり、今いる職員をどうするのかという問題も出てくる。当然一定の集団規模がいることも分かる。
- 委員 保育園は、地区によっては園児数にばらつきがある。保育園は、サービスの重要性、効率性から考えている。どこまでこの理想に近づけるかが問題である。当然統廃合が伴う。個人的には1クラス最低20名は必要だと思う。ここまでの状況だと正規職員が余ることはない。今の幼稚園には特別支援教育を充実させることが求められている。
- 委員 理想と現実にはギャップがある。規模を維持するか、学区の枠をはずすかのどちらかになる。徒歩通園

を維持するのであれば、学区の枠をはずすことはむずかしい。学区を広げるのであれば駐車場を設ける必要がある。経費については民間委託をしていくのか。

委員 駐車場を確保できるところは思い切って確保することも必要である。理想の規模に合わせて統廃合していくことが必要であろう。民営化については保育料の問題があるのでむずかしい。高いところは一月10万円以上のところもあり、私立へ移管することは、かなり保護者の負担になる。民営化については全く考えなくていいと言っているのではない。可能性があるのなら考えてもいいが。

会長 痛いところも出し合って意見を出してもらいたい。

委員 発達障害については早期発見が大切である。その意味でも3歳児保育が必要だと思う。個人的には3歳までは母子が一番だと思う。発達障害の子どもの指導にはかなり専門的なことが要求されるので、専門の人が携わることが大切である。国内留学をした先生を現場でしっかり活用することが大切である。また、倉敷地区は待機児童がたくさんいる。今、保育園はいっぱいいっぱい現状がある。保育園には保護者が常勤でないと入れないので、パート等の人が幼稚園に入れるようにすればよいのではないかと。待機児童のことも含めて考えてもらいたい。

会長 3歳児も公立幼稚園に入園させたいが、入れないという現実がある。預かり保育については次回議論していきたい。

委員 幼稚園と保育園を同時に考えていく必要がある。認定子ども園のことも考えざるを得ない状況になっている。少なくとも公立幼稚園だけを視点においた発想はできなくなっている。私立は全ての園で預かり保育をしている。公立でも預かり保育をせざるを得ない時期にきている。保育園の待機児童を幼稚園で吸収することを考えていかざるを得ない状況にきている。他の市町村のデータも含めて預かり保育のデータをいただけるとありがたい。とりあえず、3年保育をすることと預かり保育をすることを保育園とのからみの中で考えいかざるを得ない。公立幼稚園の預かりまで含めた3年保育の拡充を考えていかなければならないと思う。特別支援教育については小・中学校でも専門性の高い人がなかなかいない。養成側も考えていかなければならない。実践能力を持った人とコーディネーターを幼・保にもおくことを考える必要がある。小学校では遅すぎる。親の心構えという点についても幼稚園で特別支援教育に取り組んでいく必要がある。

会長 特別支援教育については、専門的な知識のない人がかかわらないといけない現実がある。

委員 公立幼稚園の意義が分からなくなっている。私立幼稚園はそれぞれの独自性を出している。倉敷市として、どういう幼稚園として残そうとしているのか。倉敷市の子どもが公立幼稚園に行くと、どういうものが保障されるのかということも明確にしていきたい。保育園と私立幼稚園で足りるのであれば、あえて残さなくてもよいのではないかと。

会長 倉敷市は幼児教育の先進地だと思う。公的機関として、公立幼稚園に通わせたい保護者の願いも保障していく必要がある。

委員 公立幼稚園の保護者は、集団生活はさせたい、それほどお金はかけたくないということで公立幼稚園を選んでいるのではないかと。ある特定の幼児教育に惹かれ、お金を出しても私立幼稚園に行かせたい保護者もいる。

委員 公立幼稚園は地域に密着している。そこに存在の意味がある。地域とのかかわりの中で、地域の文化・伝統を受け継いでいく。また、地域の幼稚園として地域の人が気軽に幼稚園に出入りできる。地域に密着している。

会長 地域を越えて統廃合をしていくことになると、地域とのかかわりは薄くなる。

- 委員 公立幼稚園の意義とは何かをきちっと設定していく必要がある。地域に根ざしていない幼稚園はない。公としての観点から地域にうまく設置されている。公立幼稚園はどこに行っても同じ教育内容でスタンダードな保育を受けることができ、安全安心であるということだと思う。できるだけ高いサービスを提供できるものになるとよい。
- 委員 なぜ公立幼稚園かという、親が公立幼稚園に行ったから・・・など、いろいろな状況が重なり合って判断している。公立幼稚園は子ども育つが親も育つ。公立幼稚園のPTA活動は大変であるが、いろいろなことをやっていく中で親もよい勉強になる。
1つの小学校に1つの幼稚園が基本だと思う。皆同じ小学校へ入学することが親にとって一番のメリットである。小学校でいろいろな問題が起きた時、幼稚園の時の保護者のつながりが役に立つ。少しでも早く同年代の子どもとかかわらせたいというのが親の願いである。早く子どもたちに人とかかわりをさせてやりたい。どこで3歳児保育を受けるかは、保護者が選ばばよいので、全市で3歳児保育をやってほしい。倉敷市として幼児教育をすべて平等に考える。それこそが理想だと思う。
- 会長 3歳児保育は一気にはできないが、全園でできる方向で考えるべきである。
- 委員 親を甘やかさないのが一番である。今サービスが行き届き、親を甘やかす方向へいつている。公立が3歳児保育をすれば私立は経営がむずかしくなる。3歳は家庭の中で、愛情深く育てられることが一番大事である。そのことを基本に考えた3歳児保育がよい。
- 委員 今の子どもは発達が遅れてきているので3歳児保育は早いかもしれない。しかし、専業で子育てをしている母親の方がはるかにストレスは高い。昔から幼稚園は3年保育だった。また、保育園・幼稚園も親も一緒に育てるという観点が必要である。早めに幼稚園に入って親も子ども育つ方がよいのではないかと思う。そういう意味で3歳児保育が必要である。私立幼稚園にできるだけ迷惑のかからないやり方で考えていく必要がある。
- 委員 幼稚園や保育園の先生が親を育てることはむずかしい。親になるまでに、十分育てておかなければならない。お金をかけ、社会的運動として、幼児期から親を育てることをやっていかないといけない。親を育てることが幼児教育の分野に過大な問題を押し付けていることを考えていただきたい。
- 委員 保育士の規定の中に親を育てることが入っている。養成の課程でも子育て支援の側面が強くなっている。小・中・高等学校・大学の中で親になるための準備をしていくシステムがないことが大問題だと思う。
- 委員 最近の保護者の中には先生を尊敬する気持ちが少ない人が多い。若い先生に親を育てることはできない。子どもは親の言うとおりをするので、親を教育することが大切。幼稚園で確かに親も子ども育つ。反面、特定のお母さんだけが仲良しになり、排他的になることもある。自分さえよければよい人が増えている。
- 会長 もっと集約的に話ができればと思う。学級数や1クラスの定員、教職員についてももう少し詰めてご意見をいただきたい。
- 委員 各学年1クラスずつでやればできないことはない。それで幼児が育たないことはない。そうすれば全部正規の職員を配置できる。
- 会長 ここにでてるのは理想で、必ずしも各学年2クラスなければならないということはないと思う。公立幼稚園のスタンスとしてはこれでよいか。
- 委員 この理想を目指すという方向で考えていくのか、目標に近づけるのか。どの課でも理想がある。予算、人員など様々な面から妥協している。

- 委員 様々な問題がある。一番の問題は職員構成だと思う。統廃合を早急にしていく必要がある。また、3歳の抽選に漏れた人107名を早急に救ってあげることが大切。3歳児保育を拡大したからといって私立幼を圧迫することにはつながらないと思う。
- 親を教育することはむずかしいが、幼稚園は先生と保護者が触れ合うことができる。また、親同士の中で話ができる体制ができれば親同士育ち合うことができる。そういう意味でも、まず3歳児保育を拡大することが大切だと思う。そのためには統廃合を早急に進めていく必要がある。
- 会長 これを理想に掲げた時、現実として統廃合の問題は必ずある。この指針についての皆さんの意見の集約ができれば、具体的な考えが出てくる。はじめから統廃合ありきではなく、こういった幼児教育がよい、そのためにどうするのかという方向で考えていかなければ、本末転倒である。
- 委員 前回の答申では基準を30名とし、できるだけ統廃合をしない発想の中でやられた。前の基準をどう変えるのかという発想をもつ方が現実的だと思う。前回は限界がどこかというところから答申を出している。理想から落とし込むのか、限界から考えていくのか。
- 委員 専門委員会のまとめを皆が認めるのであれば、ものすごい勢いで統廃合を進めないといけなくなる。
- 会長 平成10年の答申では、30名以下が3年以上続くと統廃合の対象になるということだった。今子どもの数が減り、この基準にかかる園が半数はある。なおかつ、今日出された理想の案でいくのなら、もっと加速度的に統廃合をやっていかなければならなくなる。これはあくまでも理想であるので、前の基準とかみ合わせながら考えていく必要がある。
- 委員 幼稚園は昔から地域に根ざしている。幼稚園がなくなると周りの住民がものすごく寂しい思いをする。地域の住民のことも大いに配慮していかなければならない。3歳児保育をしたら、全体で30人を越えて、統廃合をしなくてもよい園もでてくる。
- 国全体として幼児教育に力を入れようという動きの中で、予算を増やすなどの努力はしてほしい。倉敷市としては、統廃合ありきでいくのはどうかと思う。
- 前回の数値は基本的ラインとして出していくのがよいと思う。
- 委員 前回の答申にあまりこだわるとむずかしい。今の職員を考えた時、統廃合なしには不可能である。3歳児保育、預かり保育がなく、今の公立幼稚園は魅力がない。今は子育てから少し離れたたいお母さんが増え、保育園に行く人が増えている。個人的には、3歳までは親がきちっと育てるべきだと思うが、3歳児保育を早急にすべきである。
- 現実の問題として、職員構成のシミュレーションをやっていないと解決していかない。
- 会長 こうありがたい幼稚園像については、現実を見ながら理想を追っていくことや、10年以上を見通していくことも大切である。
- 委員 どこに公立幼稚園の魅力をつくるのかというと、特別支援教育と3歳児保育だと思う。地域が必要としていないところは統廃合していけばよい。地域の核は小学校でもよい。
- 委員 行政的な課題として、幼稚園は障害児教育に取り組んでいけばよいのではないかと。
- 委員 制度上では特別支援学校は幼稚園にもあることになっているが、現実には幼稚園にはないので、公立幼稚園の中でどんどん特徴を出してやらざるを得ない。発達障害の子どもも含めて、どうするのか見直し、人的措置を考えていくなど、充実させていくことが大切である。
- 会長 現実に立ち返ってシミュレートしていかないと生きてこない。
- 次回に必要な資料やデータがあれば。

委員 | 協議題についての説明をあらかじめいただきたい。方向付けをしたものを少し出していただけるとありがたい。

事務局 | 今回の意見を踏まえ、いくらか方向付けをした案を示すことができればと思う。

事務局 | 次回は12月を予定している。

○ 閉会あいさつ

平成19年 9月 7日

倉敷市立幼稚園教育研究協議会

会長 森 熊 男

